

火力技術訓練センターの設置について

当社は、このたび、火力部門の現場技術力の維持・向上を目的とする「火力技術訓練センター」を仙台火力発電所構内に新たに設置することといたしました。

当社が目指している安定供給、環境適合、経済性の同時達成を図るため、火力部門の役割としては、発電設備の安定運転を最優先とし、設備の効率的・効果的な運用を進めていくことがより重要となってきております。こうした中、制御装置の高度化や設備の自動化の進展、熟練者の定年退職の増加などもあり、社員の現場技術力の維持・向上を図るためには、教育訓練の一層の強化が必要となってきております。

このため、既存の運転訓練施設（総合研修センター：福島県南相馬市）と保修訓練施設（新仙台火力発電所構内火力保修技術訓練センター：仙台市宮城野区）の2つを統合し、一元的な教育訓練を推進する「火力技術訓練センター」を設置することとしました。

今回設置する火力技術訓練センターでは、運転員と保修員が双方の知見・技術などを習得するとともに、総合的なトラブル対応力の向上を図る「運転と保修の一体的訓練」を実施するほか、廃止となった新潟火力発電所3号機などの機器を有効活用し、実際に分解・点検・組立・試運転などを行う「体験体感型教育訓練の充実」、当社若手社員や企業グループを対象とした「教育カリキュラムの充実」を図ってまいります。

当社としては、このような教育訓練を実施していくことにより、火力発電所の運転・保修業務対応力が確実に向上するとともに、設備トラブルの未然防止や効率化などの課題に対して、総合的な判断で的確な対処ができるものと考えております。

建設工事は、平成22年8月30日に着工し、平成24年7月に完成する予定となっております。なお、平成23年9月からは一部の訓練を開始することとしております。

また、仙台火力発電所は、特別名勝松島第2種保護地区に立地していることから、松島の自然環境と調和するよう、実習棟建屋を日本建築の代表的な手法である白壁と瓦葺屋根の蔵をイメージした仙台4号機（出力44万6千kW、平成22年7月29日営業運転開始予定）本館と同様のデザインとしております。

建設工事にあたりましては、周辺環境の保全に万全を尽くすとともに、無事故・無災害で完成日を迎えることができるよう、安全確保を最優先に取り組んでまいります。

以 上